

フィールドワーク報告

フィールドワーク先	印象に残ったこと
We21 ジャパン かながわ	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付で商品を使っていること、最終的に売れ残ったものはセンターに集めて、手袋にして売っていること、これによってCO2を減らしている。 ・活動の広さに感心しました。 ・寄付金だけでなく、現地の事業(コーヒー・ジンジャーティ)の立ち上げを行なったということに感動しました。 ・チャリティショップなので、働くボランティア・品物を寄付する・それを買う市民…がいないと成り立たない。地域制もあるのだろうか。 ・援助の方法の難しさは、金・モノを援助することでは解決しない。→発展途上国と言われる国も、自分たちの力で伸びていくことへの援助が大切であり、その難しさを話してもらいました。 ・ボランティアはいつでもOK/雑貨・衣類のみ/SHOP スタッフ常時2名/支援先 フィリピン・モンゴル/売れ残り→綾瀬リサイクル→手袋/年100名以上の現金寄付/商品の入れ替え
友ゆうスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・外国籍の子どもたちの心の拠り所。楽しく居心地の良い所だと思います。 ・ボランティアの中には、今どきJK・JDもいて、感心した。ボランティアの皆さんが熱心ですごいと思った。 ・子どもたちが、のびのびと勉強できている。 ・今は多分まだ、参加している子が限られているので、もっと広まればいいのにな〜と。 ・来ている子どもたちが、勉強はともかく、居場所になっているんだなあと感じ。子どもたちにとって、なくてはならない場所。 ・子どもたちの振る舞いを静かに見守りつつ、居場所を作っている空間であり、またおやつなどの提供で、支えている団体があることが、とても印象的でした。
KANAK	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気です授業をしているのを見学できて、ちょっとホッとしました。 ・マンツーマンで、日本語で日本語を教えるところ。 ・いろいろな国の方がいらした。とてもアットホームで、皆さん楽しそう。楽しみながら頑張っていた。 ・入りたい!と思わせてくれる場所でした。 ・日本語教室を望んでいる人が多い。 ・外国人の方の目的が、しっかりしていて、双方にやりやすそう。 ・KANAKの方から…「子どもを連れて勉強するなんて、スゴイね〜」と言われました。
鶴見国際 交流ラウンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・1人の中に、「複文化」があることが問題になっていることを、初めて知りました。 ・成り立ちの理由が、「必要に迫られて」ということに、驚いた。ヤクザも恐れる「つるみボーイズ」。初めて聞きました。 ・神奈川区在住の外国籍の方が、過去5年間で急増していることに驚きました。多文化共生とは別に、「複文化」という考え方がある。 ・鶴見区は、次の課題に向かっている。 ・異文化が交流できる「場」の大切さ。 ・まだまだ地域の方が、国際交流という外国の人を受け入れるという意識が低いこと。係(?)の方や、一部の方々が大変だなあと感じました。 ・ラウンジの必要性をとっても感じました。 ・やっぱり、駅近! ・場所が良い所にあるので、羨ましい。神奈川区にも欲しい! ・朝9時~21時まで開いていて、行きやすく、素晴らしいと感じました。昔から海外の人が住んでいるけど、住んでいる人々の意識は変わらないと、共有は難しいので、私たちも相手の気持ちを知ることをしていく必要があると感じました。 ・多文化・多言語という人の違いによる言語・文化の違いだけでなく、「複文化・複言語」という1人の中に多言語・違う文化を持った人もいるという話が、新鮮でした。 ・以前から多くの外国に繋がる人たちがいるため、きめ細かい取り組みがなされていることがわかりました。そういう方たちの拠点となるところがあるということは、安心して生活していく上で、とても大切なことを実感しました。神奈川区にも同じような施設があるといいと思います。 ・横浜市の外国の方の実態が分かり、参考になった。施設が明るく、利用しやすそう。情報が豊富。